

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
L104	都市づくり入門	1年	講義	2	山島哲夫
授業概要 この講義では、私たちの住む都市(まち)がどのようにつくられてきたか、また、都市の生活環境をコントロールするためにどのような仕組みがあるかをはじめに学び、都市を形づくる仕組みを理解したうえで、私たち自身がまちを暮らしやすくするために何が可能か、まちづくりの方法や進め方などについて実例を通して学ぶ。					
到達目標(学習の成果) 都市づくりに関する科目を理解するための基礎的知識を習得(DP2)するとともに、都市の居住者として、まちづくりに自ら参画するための方法等についても理解させる(DP3)ことを目標とする。 都市を形づくるためには、都市の整備、都市の開発規制・誘導策等の行政が主体となって進めていく部分と、「まちづくり」活動など市民・住民が主体となる部分とがあり、この両者がともに機能することにより、快適なまちができることを理解させる。(DP2、3)					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	都市とまちづくり	都市づくりには、行政が主として担う都市整備・都市計画と住民が主体となるまちづくりがあり、この両者が適切に機能することにより都市づくりが進められることを理解する			
2	都市のつくり方	古代の都市から中世都市、近世都市、近代都市まで都市のつくり方について学ぶ			
3	都市の見方・読み方	都市をつくるという行為の前提である、計画対象としての都市の把握の方法、都市を読み解く方法について学ぶ			
4	都市の形(1)	都市化に伴い都市が拡大していくが、都市が拡大していくことを制御する仕組み、都市の内部の再編の方法等について学ぶ			
5	都市の形(2)	都市を全体として捉えるマスタープランについて、実例をもとにその考え方を学ぶ さらに、都市の景観に関する基本的な考え方を学ぶ			
6	都市の生活環境の制御(1)	都市の内部の土地利用を制御する仕組みについて学ぶ 用途に関する規制、建物の形態や密度に関する規制などの基本を学ぶ			
7	都市の生活環境の制御(2)	都市を構成するインフラストラクチャーの概要と都市に必要な施設の整備に関する基本的な知識を学ぶ			
8	都市計画の仕組み	都市計画の基本である規制と事業の概要を学ぶとともに都市計画を策定する仕組みについて学ぶ			
9	まちづくり概論	まちづくりと都市計画・都市整備の考え方の違いを理解するとともに、まちを調べる方法等について学ぶ			
10	まちのデザイン	まちづくりの目標像の考え方を理解する。収集した資料をもとに、まちを分析する視点、まちづくりの目標づくり、マスタープランなどについて学ぶとともに、ワークショップの方法についても学ぶ			
11	まちづくりの体制	まちづくりを進めるためには、多くの主体がかかわる必要がある。市民、行政、まちづくり組織などの役割と関係について学ぶ。まちづくり組織の形として NPO 法の概要についても理解する			
12	まちのルールづくり	まちのルールづくりに関する合意形成の進め方について実例をもとに学ぶとともに、まちのルールの種類・内容、まちづくり条例等について学ぶ			
13	まちの詳細な計画	地区計画、建築協定など詳細なまちづくりに関する計画について制度の概要と実例を学ぶ			
14	町並み保全とまちづくり	伝統的な町並み保存の動きについて、いくつかの事例を基に学ぶとともに、伝統的建造物群保存地区制度の概要について学ぶ			
15	市民によるまちづくり	黒壁(滋賀県長浜市)、村上(新潟県)、小布施(長野県)などを例に、市民が主体となって進めるまちづくりについて学ぶ			

準備学修(授業外の自己学修)

- 1.授業の前に、この講義用に作成した「講義用資料」を読んでから授業に臨むこと。なお、初回の講義の前にはシラバスをよく読んで、講義全体について把握しておくこと。
2. 授業後にも再度「講義用資料」を読み直し、要点等をまとめるとともに、よく理解できなかったことは、次の授業の際に聞けるように準備しておくこと。

成績評価の方法・基準(%表記)

レポート提出及び授業時の課題の評価並びに授業への参画状況 20% 期末試験の成績 80%

観点	S	A	B	C
都市づくりに関する基礎的知識についての理解 DP2	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
都市整備に関する制度・仕組みについての理解 DP2	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
まちづくりの仕組み・進め方についての理解 DP3	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

この講義のために作成した冊子「講義用資料」(約 90 ページ)を教科書として使用する。「講義用資料」は初回の授業の際に全員に配布する。

参考書等

参考書は特に使用しない。必要な場合は、講義の際に別途プリントを配布する。

履修上の注意・学修支援

- 1.本授業は出席を重視している。2/3以上出席しない場合は、試験の受験資格がなくなる。また、2/3以上出席したとしても、欠席や遅刻は回数により減点があるので、注意すること。
- 2.何かわからないことがあったら、早めに相談すること。なお、相談は、原則としてオフィスアワーの時間に受け付ける。